●Current English 3・4
●ビジネス・コミュニケーション・スキルズA・C
●メディア英語に見るアメリカ社会と文化Ⅰ・Ⅱ

阿久津 由佳 准教授

【あくつ ゆか】
上智大学外国語学部英語学科卒業後、シティバンク、群馬県庁に勤務。その後スタンフォード大学大学院で外国語教育を専攻し修士号を取得。趣味は映画観賞、旅行。これまでに訪れた国は約30カ国。

英語の敬語!?
～見えない言葉のルール「語用論」について～

研究テーマ

「仲のいい友人」と話すときと「知り合い程度の人」と日本語で話すとき、皆さんは同じ話し方をしますか？　伝えたいことが同じでも言い方を変えますよね。では、英語ではどうでしょうか？「英語ってフランクでしょ？　敬語ないし。あんまり変わらないんじゃないの？」と思った方もいるのでは？　いえいえ、英語でもやっぱり違ってくるんですよ！　丁寧な言い方もちゃんとあります。私の研究テーマは「語用論」というもので、とても大雑把に言うとそんな「話し方・伝え方」を研究するものです。

言葉を使うとき、私たちは文法や語彙や発音の知識（言語知識）だけでなく、その言語社会のルールやマナー、決まった言い回しなどの知識、つまり「語用論的知識」も使っています。例えば日本語だと「目上の人には敬語で話す」というのもその一つです。これらのルール等は言語や社会によって違うことが分かっています。例えば、アメリカ英語では「目上」だからではなく、むしろお互いの「心的距離」によって丁寧表現の使われ方が変わると言われています。つまり、きちんとした言語コミュニケーションのためには、言語知識と語用論的知識の両方が必要なのです。

私は特に外国語学習者の語用論的能力とその習得に興味を持っています。というのも、社会に出て外国語を使うときには語用論的能力が絶対に必要になるにもかかわらず、文法や語彙を学ぶことによってではそれが身に付かないからです。ところが、これまでの外国語教育は言語知識の指導に偏り、語用論的能力に関してはほとんど触れてきませんでした。私はこの問題点の改善を目指して研究をしています。